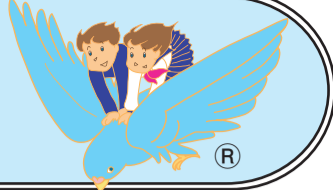


君とつばさ



令和6年10月10日
発行・公益財団法人 交通遺児育英会
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-1
(電話) 03(3556)1789
(HP) https://www.kotsujii.com

©交通遺児育英会

「高奨生と保護者のつどい」開催

全国70家族166人参加

交通遺児育英会は8月17、18日、都内で「高校奨学生(高奨生)と保護者のつどい」を開いた。心塾生、保護者による講演のほか当会職員ら交えた談話、奨学生対象のグループワーク(SWG)などが行われ、全国からまった参加者は懇談やゲームを通じて交流を深めた。(2面に記事)

当会設立翌年の1970(昭和45)年に始まった「つどい」は中断期間を挟み、今年で49回を数える。奨学生の「仲間づくり」に加え、99(平成11)年からは保護者も加わって意見交換を行う場ともなっている。

今回は高校奨学生68人(昭和45)年に始まった「つどい」は中断期間を挟み、今年で49回を数える。奨学生の「仲間づくり」に加え、99(平成11)年からは保護者も加わって意見交換を行う場ともなっている。



5年ぶりつどい参加者が心塾を見学

「つどい」2日目には、心塾東京寮(東京都日野市)の見学会が行われ、見学希望のあった奨学生20人とその保護者・同伴者26人の計46人が参加した。見学会はコロナ禍、建て替え工事による中止期間を経て5年ぶりの開催となった。

参加者は担当職員から説明を受け写真、居室をはじめ食堂、ラウンジ、イベントホールなど主な施設・設備を見て回った。各居室に備わるシャワールームや洗濯機、電子レンジなど設備の充実ぶりに驚く声が上がったほか、ゲストルームの利用条件や、関西圏の民間施設を借り上げている心塾関西寮についても質問があった。



心塾で学んだ「人間の強さ」

引き続き行われた講演では、東京心塾生の道下亜美さん(法政大4年)

活用してほしい」と奨学生に呼びかけた。

「写真」が父を亡くした際の経験を通り、心塾での日常によって得られた気づきについて触れた。「濃厚で家族思い」だった父が亡くなったのは、道下さんが14歳で中学生の時。病院に駆け付けた際は母の呼びかけに響いた父だったが、5時間後に亡くなった。病院をはじめ、その後の裁判での弁護士への対応や遺品を引き取りに行った父の職場の空気……信じられないことが続き、「社会不信・人間不信に陥った」という。公務員として誇りを持って仕事にあたり、社会に貢献しようとする骨身を砕いていた父を「社会はどうして雑に扱うのか」と憤りを覚えたが、そんな自分を変えたのが東京・心塾での生活だった。

大学で新しい知識を学び、心塾で同じような経験を仲間との付き合いを重ねるうちに「人間の強さ」を知り、自分が「生き返った」ように感じたという。道下さんは「事故で人生が一変しても、自分の意志で人生を取り戻すことはできる」と参加者に訴えた。

「息子と幸せになる」
亡き夫との「約束」

「夫と約束」が、現在も心の支えであり、人生を歩んでいく原動力にもなっているという矢部さんは現在、カウンセラーとしても活動する。「同じような経験をされた皆さんと共感し合えるのはとても幸せなこと。これからも共に支え合い、励まし合いながら小さな幸せを積み重ねていきたい」と結んだ。



矢部繭子さん(写真)

米国語学研修生が帰国

カリフォルニアで3週間の日程終了



昨年4年ぶりに再開された海外語学研修に参加した高校奨学生27人が8月12日、米国から帰国した。一行は7月22日に羽田空港を出発、米カリフォルニア州・テメキュラで現地家庭にホームステイし、語学学校に通いながら課外活動を通じてアメリカ文化にも親しんだ。(写真は現地での授業風景、7月24日撮影。3面に研修レポートを掲載)

保護者懇談会、グループゲームも

TRを視聴した後、保護者は計11グループに分かれて懇談会が行われた。懇談会には役職員のほか現役の心塾生も同席し、日常の悩みごとや進路、心塾での寮生活などについて意見を交わした。高奨生と同伴家族の生徒・児童は、会場を移して担当者の指導でオリジナルゲームを楽しんだ。



高校奨学生が取り組んだグループワークゲーム。初対面でも打ち解けやすい。



機械式の腕時計を分解して、学校のプールにパーツを投げ入れ、水をひたすらかき混ぜると、あら不思議。水の流れの作用か、偶然に偶然が重なったのか、腕時計は元通りの姿に組み上がる。▼到底あり得ずともない話だが、一説には「生命の誕生」とはそれくらい奇跡的なことだそう。約40億年前とされる、生命の起源に一步迫る発見があった。南アフリカの約20億年前の地層から生きた状態とみられる微生物を東大の研究チームが採取した▼7月に一報を伝えたNHKによると、DNAを含む細胞や生きた生物が作るたんぱく質も見つかったとか。これまでの生きた微生物の最古の記録は約1億年前のもの。20億年前の微生物と確定すれば、ほぼ当時の姿をとどめている可能性が高いという。生命の誕生と進化の解明に向け、専門家は「玉手箱を開けるような感覚」と期待を寄せる▼46億年前に誕生して以降、多様な生物に満ち溢れる今の地球もまた奇跡に等しい。思えば、わずか30万年ほど前に登場したにすぎない現在の人類。20億年にわたる時間を紡いできた最初の微生物は、地球が育んできた「命」と謙虚に向き合うことの大切さを改めて教えてくれる。

高奨生「よかった」98%

アンケート集計 懇談では補助拡充要望も

心塾東京の見学（希望者のみ）を含め、2日間の日程で行われた「高奨生（心塾）や他の事業・制度について知ることができた」などが並び、昨年同様の傾向だった。大学奨学生の道下さんの講演には「子ども側の気持ちになれた」「こんな先輩がいる心塾なら、安心してわが子を進学させられる」などの感想が寄せられた。保護者の矢部さんの講演についても「自分だけじゃないんだ」と心強かった。「生き方が参考になった」などと、参加者の共感を呼んだ。

「自分だけじゃない。心強かった」

参加してよかったことを保護者に尋ねると、「同じ境遇の人の講演を聴いてよかった」という声が多く聞かれた。また、高奨生から「同じ境遇の友だちができた」など、打ち解けた様子が見られた。アンケートでは、高奨生が「よかった」と答えたのは98%（39人）だった。



講演を聴くついで参加者

「語りいカフエ」も増やして

自由記述では、保護者から「保護者懇談会の各グループで話を、皆で共有してはどうか」「大学生、既卒者のつどいも開いてほしい」などの意見が出た。さらに、各地域の保護者を招いて全国で開催している「語りいカフエ」について、近隣の地域でつながりが生まれやすいことなどから評価が高く、「（開催回数・場所をもっと増やしてほしい）」との要望もあった。



保護者懇談会の様子

また、高奨生からは「同じ境遇の友だちができた」など、打ち解けた様子が見られた。アンケートでは、高奨生が「よかった」と答えたのは98%（39人）だった。

GWについては、8割超が「よかった」と答え、ゲームの楽しさに加えて「初対面の人と話さきつかけになった」「チームワークや共同作業ができた」「体を動かしたり、表現ができた」とする感想が目立った。



「反骨心で頑張つて」中日・柳投手招待プロジェクト今季の日程終了

交通遺児育英会の元奨学生でプロ野球・中日ドラゴンズの柳裕也投手が交通遺児家庭を公式戦に招待する「柳裕也招待プロジェクト」が、9月22日の対広島戦（名古屋・バンテリンドーム）今季の日程を終えた。「自動車事故対策機構（ナ斯巴）」「東海交通遺児を励ます会」と連携し、今季は5試合に14家族ら計42人を招待した。この日は柳投手との交流は実現しなかったが、ビデオメッセージを寄せた柳投手は「僕がそうしてきたように、寂しい気持ちを反骨心に変えて頑張つて」などと子どもたちを励ました。

絵にかかわる仕事に就くために「アトリエ教室」に通う

2年 立谷 知香

高校に入学した最初の1年間の学校生活では、自分が将来何を仕事にしたいかを中学時代より具体的に考えて、それに対して行動に移し始めることができました。ここでは自分の将来の夢を、夢をかなえるために書いた「夢の軌跡」という本題について書いていきます。

将来の夢といっても、まだ明確には決まっていませんが、絵にかかわる仕事をしたいと考えています。

学校ではよく「偏差値の高い大学へ」といわれることが多いですが、私は「偏差値の高い大学へ」といわれることが多いです。偏差値の高い大学へ行くことが私の夢です。偏差値の高い大学へ行くことが私の夢です。偏差値の高い大学へ行くことが私の夢です。

高校生の声

は美大受験に向けた絵の勉強を主に頑張ることを決意しました。頑張るといっても、自分一人の力で美大に受かるような絵を描けるようになるのは難しいです。アトリエ教室に通い始めました。これが将来の夢をかなえるために始めたことでした。美大受験には欠かせない技術を基礎から学んでいます。この春からはもっと厳しい授業になりましたが、他のメンバーに置いていかれないように、頑張っています。

このように1年生の間は、だいたいの将来の夢と、それに対して何をすべきかを考え、行動できました。絵だけでなく普通の勉強も忘れずに、引き続き頑張っていきたいです。（兵庫県）

「相手の立場で考える」部活マネジャーになって視野が広がる

2年 黒須 凜

昨年はとても苦しかった受験を乗り越えて、無事第一志望校に入学することができました。新しい環境は慣れないことばかりでした。部活動は男子バレーボール部のマネジャーをやることに決め、周りを見て効果的に行動しようと思っていました。しかし、部内では私が入部する前から、周りの友達も「頭のいい大学へ行きたい」と言っているのをよく耳にしますが、勉強が大好きではない私からすると、頑張るといっても、自分一人の力で美大に受かるような絵を描けるようになるのは難しいです。アトリエ教室に通い始めました。これが将来の夢をかなえるために始めたことでした。美大受験には欠かせない技術を基礎から学んでいます。この春からはもっと厳しい授業になりましたが、他のメンバーに置いていかれないように、頑張っています。

このように1年生の間は、だいたいの将来の夢と、それに対して何をすべきかを考え、行動できました。絵だけでなく普通の勉強も忘れずに、引き続き頑張っていきたいです。（兵庫県）

出張講演を聴いて

「いつでも加害者になりえる」という言葉が、すごく響きました。

父を交通事故で失ったので事故の悲惨さ、遺族のつらさに共感した。

普段は聞くことがない話を聞くことができ、有意義な時間でした。

「日常は当たり前ではない」という言葉がとても印象に残りました。

実際、いつ自分の身に起きても不思議ではないことで、とても人ごととは思えませんでした。

（交通遺児育英会）ともに事故のない社会を実現させたいと強く思いました！

従業員向けに社内定期開催してもらいたい。

全ドライバーに視聴してもらい、事故防止のために自分が何をすべきか考える機会にしていきたい。

家族を守るの自分であること、自分ひとりの命ではないことを再認識しました。

車を管理する私たちも、日ごろの安全運転指導・教育をしっかり行うことが大切だと感じました。

収録映像による講演ながらとても心に響き、涙が出ます。

自分が加害者にならないよう、安全運転を心がけます。（東京都・ロジスティクス様のアンケートより）

他者が交通事故被害者の家族に、

免許を取得して1年もたっていないが、今後も変わらず安全運転を心がけたい。

悲愴な体験は本人にしかわからない。そのような状況で、しっかりと現実に向き合い、前を見つめる姿には心打たれるものがありました。

リアルなお話を聞くことができ、勉強になりました。お客さまも共有して事故の減少に努めたい。

講演の申し込みを受け付けています

交通遺児育英会ではDVD等による全国無料出張講演の申し込みを受け付けています。申し込み、内容に関する詳細は当ホームページ（<https://www.kotsuiji.com/>）または電話（03-35556-1789）にてお問い合わせください。

2024 海外語学研修報告

【前編】



日本と全く違う世界は何もかもが新鮮で、ワクワクしました。中でも記憶に残っているのはホストファミリーとの最後の時間です。3週間いろいろなことを教えてくれた



小野田いおな
アメリカに到着後、ハグで迎え入れてくれた、ホストファミリーのビルとキャシーはとても温かい人たちでした。私が補聴器を使っていることも自然に受け入れてくれました。それでも私はホームシックになってしまいました。ここまで来たのだから自分で解決するしかない！」と決め、支えてくれる方々への感謝の気持ちで過ごすように思い直しました。

ビルとキャシーとの別れが悲しくて寂しくて仕方ありませんでした。2人の元でホームステイすることができて本当に幸せだったと心から思っています。
たぐさんの支えや刺激の下で成長することができました。私の人生においても大きな経験になりました。(愛知県)

初めての海外で英語もうまくしゃべれず、不安いっぱいアメリカに囲まれました。ですが、ホストファミリーは常にキラキラの笑顔で受け入れてくれました。休日には「何が食べたい?」「何かやり残していることはある?」と希望を聞いてくれ、少しずつコミュニケーションを取り合えるようになり、子どもとも一緒に遊ぶことができました。しかし、実際に3週間私の英語力が急激に上がったわけではありませんでした。ではなぜファミリーと会話ができるようになったかという、言葉だけでなく身ぶりや手ぶりで伝えようという気持ちが大きくなったからです。日本では「文法がわかしくないか」など、とても気になり、少しでも分らないと次の言葉が出てこないことが多くありました。しかし、実際にファミリーと話す時思いついた単語のみでも会話できました。重要なのは、伝えようとする態度なんだと学びました。

研修の最後には「もっと英語が話せるようになりたい」と強く思いました。自分の伝えたいことを英語で伝えられるようになって、ホストファミリーとたくさんお話ししてみたい、と。今までは苦手なだけで避けてすらいいた英語に、もっと上達したいと向き合えるようになりました。

この経験を生かして今後も学生生活に励んでいこうと思います。(東京都)

丸野 楚空
異文化に触れ、アメリカの生活様式や価値観を深く理解する、とても貴重な機会を得ることができました。まず、アメリカの英語でコミュニケーションがとれること、力の家庭文化についての理解が深まりました。ホームステイした家族は非常にフレンドリーで、家族の一員として温かく迎えてくれました。家族と一緒に夕食を取ることが多く、食事が家族の絆を深める重要な時間であることを実感しました。さらに、教育について興味深い学びがありました。授業や課外活動では、生徒の自主性や創造性が重視されます。授業もディスカッションやグループワークが多く、生徒は積極的に手を挙げていました。



山内 颯太
とても貴重で一生忘れられない研修でした。ホストファミリーは本家の家族のように接してくれ、一緒にパティオを見て応援しながら、たく

情報発信と物心両面支援を

ヤングケアラー調査から

交通遺児育英会が3月に実施した「ヤングケアラー(YC)」調査では、家族の世話を担う奨学生本人(過去の経験者を含む)のほか、世話の経験がない奨学生からもヤングケアラー支援の在り方について、多様な意見や要望が寄せられた。

調査は全奨学生(830人)を対象に行われ、366人が回答。過去を含む58人が家族の世話を経験しており、うち41人は現在も継続していた。自由記述欄にある奨学生の声からは、現状への理解と具体的支援を求める姿が浮かび上がる。

具体的支援内容としては、学費など経済的支援への要望のほか、次のような記述もあった。「YCは『自分がやるしかない』との思いがあるのでは。経済的支援よりも、ホームヘルパーなど日常の家事代行サポートが効果的ではないか」「信頼できる相談相手やお手伝いさんの派遣などがあると精神的な負担が軽くなると思う」

石橋健一会長は「実態調査を継続して当事者のニーズを把握し、早急に支援を具体化させたい」と話している。

支援情報、YC

交流の場が必要

自由記述では、法改正が行われても「ヤングケアラー」という言葉自体社会への浸透が不十分と感じ、「SNSなどを通じて積極的に情報発信してほしい」という意見が多く寄せられた。さらに、「自分がYCかどうか分からない方が多くいる」と思っている。第一歩として実態の把握が必要」など支援の前提として現状の精査が必要との回答が目立った。その上で、「助けが必要な人を絞った上で、

具体的な支援の提案・実施を行うべき」と各家庭の実情に合わせた支援を求める声が上がった。家族の世話に時間を費やさなければならぬ環境については、「奨学生自身がやりたいと思っていることに時間を使えるようにしてほしい」とする要望があったほか、「YCに対する」支援にどんなものがあり、どこに行けば助けをもらえるのか、知らせてほしい」と周囲には相談しづらい問題なので相談窓口を設けたり、YC同士が思いを話し合える場所がほしい」といった公的機関を含めた支援情報の提供や、同じ境遇にある奨学生が交流できる場の提供を求める声があった。

実際に家族の世話を担う当事者はより切実だ。「母、弟に障害があり、家族のケアは小さいころから当然だと思っていたが、公的なサポートが受けられないのであれば、その情報がほしい」

「芸術の秋」劇団四季鑑賞



都内で劇団四季公演「アラジン」を鑑賞した二写真。人気作品を鑑賞したに既に複数作品を鑑賞した「芸術の秋」を満喫した。

言葉のすこみ 文の意地

この短編集を、吉野せい は、夫の死を経て自分を解き放つように七十歳を超えた昭和半ば過ぎに執筆した。福島島の片隅に生きる「貧乏百姓」だったから、家族の命を守る野良仕事に明け暮れる人生だった。

六歳のノボルがヨーヨーを買う二銭をせがむ「漢をたらした神」で、母は、キャベツ一個、茄子二十個、小鯛十五匹は買える」と拒む。息子はめげず、松の枝で手作り。その球の動きは「厳粛な精魂の恐ろしいおどろだった」と「神」の生命力を歌い上げた。

「鉛の旅」は、出征したツトムにかすかな運をあたりに会いに行く話。鉄道を乗り継ぐ旅の果てに、兵營の土壇上に息子を見つけて好物の赤飯入りの包みを投げ

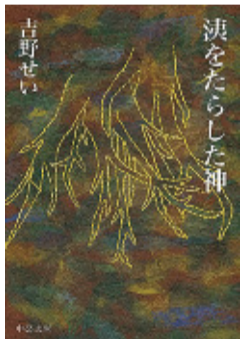
上げ、息子は父あての官給のたばこを投げ返す。一言交わすだけの瞬間の再会劇に、「母」の執念が映る。「梨花」が庄巻。家族の命を守りきれなかった悲嘆をつづる。生後八か月の娘が衰弱していく。医者を呼べない極貧を「恨むか、梨花」と嗚咽。体を温めた冷やしたり民間療法で手を尽くすが、愛娘は正月を前に逝った。その死にゆく様を肅然と克明に記す筆致は、わが身にむち打つ罪ほろぼしの追悼文のよう。ほぼ半世紀、三十年も前の生活雑記を、記憶とメモ片を頼りに再現した。それほどときを隔ててなお、地底からほとばしる炎のよう鮮烈に活写した。質朴な言葉のすこみに打ちのめされ、一期一会の文の意地にえぐられる。生を全うする緊迫感に射すくめられるのも、カタルシス。

涙をたらした神

吉野 せい 著

中公文庫(770円)

もう読んだ?



迷いなし 料理道まっしぐら

夢まっしぐら

とよしま ゆうか
豊島 柚香 さん

町田調理師専門学校高等課程 2年



料理とアイドルグループ・櫻坂46が大好き。小・中学校でドッジボール、軟式テニスに打ち込んだスポーツ少女は中学校卒業後、調理師を目指して専門学校に進学した。「みそ汁が好き」で得意料理は「ドリア」という和洋折衷派の豊島柚香さん(16)を訪ねた。

—調理師、料理人を志望しているんですね。
「はい。西洋料理の道に進みたいです。はつきり決めたわけではありませんが、フレンチがいい」

—西洋料理が好き？
「調理実習で西洋料理が一番楽しかった。でも、入学す

る前はパティシエ(菓子職人)になりたいと思っていました。今もクリームを絞ってデコレーションする技術は得意です」

—パティシエですか？
「小さい頃、クリスマスになるとラスボンジ生地と生クリームを買って家族でケーキを作るのが恒例で、とても楽しかった。中学生になり、コロナで休校の時に、思い立ってクッキーを焼いて家族や友人にあげたらすごく喜んでくれて。『ついつい、いいな』って」

—進路変更ですね。
「お菓子作りもよかったのですが、料理の方が材料も調理の手法も多彩に思えて。自分の世界観が広がるということも、面白いと感じました」

—好きな料理は？
「みそ汁です。自分でまたまに作りますが、白みそ仕立ての母が作るみそ汁が原点。だしのきいた優しい味です。洋食だとドリア。作るのも得意で家族に振る舞ったら、とても喜んでくれました」

—学校選びでは迷いはありませんでしたか。
「高校へ行っても卒業したら料理の専門学校へ進むつもりだったので、どうせなら今のうちから学んだ方がいい。高校卒業資格も取れるので、迷いはありませんでした」

—具体的な将来の夢は描いていますか。
「フレンチのお店のほかに、ホテル、結婚式で使われる

ようなレストランとか。就職できたらいいなと思います」

—卒業後、有名店で働く先輩方もいらっしゃるんですね。
「そうした先輩からアドバイスを受ける授業もあります。先輩方に共通して言われるのは、朝の自主練習を大事に、ということ。授業が始まる前に、基礎的な技術を磨くことが大切だと教わりました」

—最終的には自分の店を持ちたいですね。
「修業して、たくさん知識と経験を積み上げたい。そして自宅を兼ねた温かい雰囲気

の西洋料理のお店を持ちたいです。35歳くらいまでに」

— 昨年の秋、父(享年49)を亡くした。料理が趣味で、会社員ながらハンバーグの腕前はプロ級。「休日は必ずハンバーグ。いろいろ試して、肉汁をしっかりと閉じ込めて焼いてくれた」。しゅうまいやカレーも納得するまでこだわった探求心の持ち主だった。となると、料理人志向も父の影響？「いえ、父はあまり関係ないです(笑)」

— 通学で使う最寄り駅まで電動アシストなしの自転車で40分弱。小中と続けたスポーツから少々遠ざかっていたが、坂道のある通学路の往復と動き回ることの多いすし店のアルバイトで「十分、運動になってるかな」。何より、田んぼに囲まれた道を自転車で走るのが好きだ。

「気分が落ち着きます」

オンステージ

まじい勢いで再開が進む東京・渋谷。

変貌する街のセネコン営業部門で働く石川重樹さん(46)。電機業界から転職して7年、前職を含め一貫して営業畑を歩んできた。

営業職のやりがいは「いろんな人とつながること」と即答する。「顧客をはじめ、社内外のつながりが営業の仕事の全てだと思う。人脈が広がれば入ってくる情報量も増える。営業マンの面白さ、醍醐味です」

とはいえ、実社会はなかなか厳しい。

「正直、つらいことも多い。顧客に理不尽なことを言われたり。そんなストレスを真正面から抱え込んでしまうと、自分自身が潰れてしまう。『そんなもの』と、いい意味で割り切ることも必要と悟りました」

そんな山あり谷ありの営業マン人生を経て、最近感じていたことがある。

「前職も今の職場も、モノ作りの会社。商品開発などは専門の技術者に任せられない。自分は自社の商品をお客さんにつなぐのが仕事です。最近売れるモノが何であれ、『何とかするんじゃないか』と思えるようになりましてね」

営業一筋を貫いてきたからこそ、たどり着いた境地かもしれない。だが、学生の頃に思い描いていた将来は少し異なる。

大学時代は就職氷河期の真っただ中。それでも国際物流を手がけるベンチャー企業に内定したが1年半で退職。元々興味があったマスコミ業界がきらめき、ず、自分探しのようにフリーターとしてテレビ制作会社などで働いた。

「ちゃんとしなきゃ」人生の転機は結婚。30歳だった。一念発起してマイホームを購入、「住宅ローンが組めないようではどうしようもない」と就職活動を再開。大手電機メーカーに就職したが、10年ほど勤めた後、業界再編を機に、今の会社に転職した。現在は高1の長女、中1の長男の良き父親でもある。

「養うべき家族がいれば、仕事は自分のためだけにやくなりません。『この仕事が好きだから』というより、『やらなきゃいけないから』という場面が増える。そんな状況でも、いかに仕事の喜びや楽しみを見つけられるか、が大事なな

だと思えます。自分の場合は人とのつながりを広げること、でした」

いしかわ しげき
石川 重樹 さん

東急建設株式会社都市開発支店(東京都渋谷区)



営業マン人生支えた「人とのつながり」

大学時代を心塾東京寮で過ごした。常々先輩に言われたのは「心塾は安宿にあらず」ということ。

「酒を酌み交わし、夜な夜な先輩後輩が語り合う。そんな場でもありました。心塾は人間教育の場でもあります。異なる考え方に触れて、人として、もみくちゃにされた方がいい」

大学2年の時には、新入生を迎える入塾式で「シンユウ」という言葉を引きながら、こんな祝辞を送った。

「1年目の新(しい)友は2年目で親友に。3年目に気心のしれた信頼できる信友になり、4年目には、それぞれの進路は違っても心でつながる心友になる」

卒業後、四半世紀たった今も、心友、たちとの絆は続いている。

忘 年会の帰り道、歩いて帰宅していた父(享年38)は飲酒運転の車にひき逃げされた。小学5年の時だった。「しつけに厳しい父でした。父が言うには『自分もそうやって育てられた』そうですが、父の死後は、母方の実家がある長崎県へ。大学進学を機に再び上京する。

冒険家の故・植村直己に触発され、初心者ながら大学では山岳部に入部。果敢に冬山にも挑み、「3回くらい死にかけた」。社会人となってからも山岳部仲間との縁は続き、かつての仲間との来たるべき「冒険」に備えて、週末のジム通いは欠かせない。これまでの人生で最大の冒険は、

「結婚、ですかね(笑)」

特別対談

～ハンドルの重みは命の重み～

「交通事故死ゼロ」1万日の軌跡



(公財) 交通遺児育英会

石橋 健一 会長

いしばし・けんいち 1942年生まれ。北大卒業後、日新製鋼(現日本製鉄)を経て96年から交通遺児育英会。専務理事、理事長等を歴任。昨年6月より現職。

「3年間ずっと時」私たちが思い出して

かつて年間交通事故死「全国ワースト1」が長く続いた北海道で、「交通事故死ゼロ」を30年近く続ける村がある。酪農を基盤に置く人口950人(6月末現在)の北海道紋別郡西興部村。村は1昨年に事故死ゼロ1万日を達成、このまま更新を続けると、来年1月末にはゼロ記録30年を迎える。偉業の裏側にどんな取り組みがあったのか。菊池博村長に交通遺児育英会の石橋健一(会長)が聞いた。

石橋 村の「交通事故死ゼロ」記録が続いているのは、簡単なことではないですね。菊池 最後の死亡事故が1995年1月30日でした。以来、1万日を越える記録は、村民が地域一丸となって交通安全運動に取り組んでくれた成果です。夏季の6～10月は、毎月15日に住民や職員が国道沿いに立ってドライバーに交通安全旗を振り、交通安全を訴えています。旗のデザインも毎年、村内の小中学生が考案するのです。沿道には約300枚の旗が子どもの目線の高さに掲げられ、地域の宝である子どもの被害を未然に防ぐ大きな力になっています。

石橋 国道が村の中心部を貫いており、交通量は決して少なくありません。にもかかわらず、これだけ長期間ゼロ

菊池 交通安全を学ぶのは、身近な人同士で続ける。毎日の声かけこそ大切

菊池 交通事故を防ぐ特効薬はありません。何より一人の心がけです。交通安全は自分自身が主役であること

石橋 身近なところから交通安全の当事者意識を養うのはとても大切ですね。当会は車社会の負の側面と言える交通事故、中でも保護者が事故に遭い、経済的に困窮した子どもたちを救おうと1969

石橋 遺族の言葉から始まったのです。私も交通事故で肉親を亡くしています。また、農協勤務時代は共済(保険)事業を担当し、交通事故の悲惨さ、遺族の大変な状況を目の当たりにしてきました。

石橋 当会には主に5つの事業に取り組んでいます。「奨学金の貸与(一部給付)」「修学支援金給付」「奨学生

石橋 遺児育英会の奨学金をもらって学校に通い、当村の職員になった者がいます。事故撲滅の願いは人一倍強く、日頃から交通安全のPRに努めています。交通安全として支援を受けた人が、地域の交通安全運動に尽力する

石橋 コロナ禍で中止を余儀なくされていた「高校奨学生と保護者のつどい」、高校生の一海外語学研修などの交流事業を昨年、4年ぶりに再開しました。さらに「語ら

た。「わが子をせめて高校には進学させたい」との声をきっかけに支援運動が広がったのです。以来、約5万8千人を支援し、年間の支援額は約6億円に上ります。

菊池 遺族の言葉から始まったのです。私も交通事故で肉親を亡くしています。また、農協勤務時代は共済(保険)事業を担当し、交通事故の悲惨さ、遺族の大変な状況を目の当たりにしてきました。

石橋 当会には主に5つの事業に取り組んでいます。「奨学金の貸与(一部給付)」「修学支援金給付」「奨学生

石橋 遺児育英会の奨学金をもらって学校に通い、当村の職員になった者がいます。事故撲滅の願いは人一倍強く、日頃から交通安全のPRに努めています。交通安全として支援を受けた人が、地域の交通安全運動に尽力する

石橋 コロナ禍で中止を余儀なくされていた「高校奨学生と保護者のつどい」、高校生の一海外語学研修などの交流事業を昨年、4年ぶりに再開しました。さらに「語ら

た。「わが子をせめて高校には進学させたい」との声をきっかけに支援運動が広がったのです。以来、約5万8千人を支援し、年間の支援額は約6億円に上ります。

菊池 遺族の言葉から始まったのです。私も交通事故で肉親を亡くしています。また、農協勤務時代は共済(保険)事業を担当し、交通事故の悲惨さ、遺族の大変な状況を目の当たりにしてきました。

石橋 当会には主に5つの事業に取り組んでいます。「奨学金の貸与(一部給付)」「修学支援金給付」「奨学生

石橋 遺児育英会の奨学金をもらって学校に通い、当村の職員になった者がいます。事故撲滅の願いは人一倍強く、日頃から交通安全のPRに努めています。交通安全として支援を受けた人が、地域の交通安全運動に尽力する

石橋 コロナ禍で中止を余儀なくされていた「高校奨学生と保護者のつどい」、高校生の一海外語学研修などの交流事業を昨年、4年ぶりに再開しました。さらに「語ら

た。「わが子をせめて高校には進学させたい」との声をきっかけに支援運動が広がったのです。以来、約5万8千人を支援し、年間の支援額は約6億円に上ります。

菊池 遺族の言葉から始まったのです。私も交通事故で肉親を亡くしています。また、農協勤務時代は共済(保険)事業を担当し、交通事故の悲惨さ、遺族の大変な状況を目の当たりにしてきました。

石橋 当会には主に5つの事業に取り組んでいます。「奨学金の貸与(一部給付)」「修学支援金給付」「奨学生

石橋 遺児育英会の奨学金をもらって学校に通い、当村の職員になった者がいます。事故撲滅の願いは人一倍強く、日頃から交通安全のPRに努めています。交通安全として支援を受けた人が、地域の交通安全運動に尽力する



北海道紋別郡西興部村

菊池 博 村長

きくち・ひろし 1957年生まれ。高校卒業後、西興部村農協(現オホーツクはまなす農協)。金融共済部長などを経て2015年西興部村長に当選。現在3期目。

「小さな村」だからこそ出来ることがある

このため、2022年度に広報課を新設しました。道内には「北海道交通安全推進委員会」「北海道交通遺児の会」といった支援団体があり、各団体で連携して子どもが大人の

菊池 飲酒運転に起因する悲惨な事故が相次いだ結果、厳罰化が進んで社会の意識も変わり、飲酒運転の摘発・事故は大きく減りました。しかし、依然として「事故を起こせば見逃されたい」という風潮が根付いていない。自分だけは大丈夫という心理が、飲酒運転の根絶を阻んでいる。飲酒運転は命の重み、命の問題です。厳罰化で終わりはありません。運転者一人一人が「罰則が厳しければいい」と意識を変えなければなりません。

石橋 7月13日は道が定めた「飲酒運転根絶の日」でした。飲酒運転根絶条例は、14年に小樽市で女性4人が死亡した日を飲酒ひき逃げ事件が発覚した日を飲酒運転根絶の日と定めました。「飲酒運転をしない、させない、許さない、そして見逃さない」を合言葉に飲酒運転の根絶を誓い、心を一つにする日です。飲酒運

石橋 飲酒運転は視覚、聴覚、動作と複数のことを脳で処理する高度な技術です。微量の飲酒でも悪影響を及ぼすことが科学的に明らかになっています。集中力が下がる、注意力が落ちる、反応時間が遅れる、ハンドルの操作がうまくできなくなるなど、運転に必要な「正しい認知、判断、操作」ができなくなります。

石橋 「飲んだら乗らない」を徹底するだけでなく、周囲で誰かが飲酒運転をしそうな時は勇気を持って止めたり、通報したりしてほしい。「見えて見ぬふりをしない」ことも非常に重要です。一人一人が行動する機運を高めていく必要があると考えます。交通事故死も飲酒運転も「ゼロ」が当たり前という地域、社会をつくりたい。まずは、家族や友人同士、職場といった小さなコミュニティから地道な活動を積み重ねていくのが良いと思っています。

石橋 あるお母さまが言った「ハンドルの重みは命の重み」という言葉があります。誰もがこの言葉を心に留め、運転することが大切だと思います。これからも事業を通して、安全運転徹底と飲酒運転根絶を呼びかけていきます。

石橋 飲酒運転は命の重み、命の問題です。厳罰化で終わりはありません。運転者一人一人が「罰則が厳しければいい」と意識を変えなければなりません。

石橋 飲酒運転は命の重み、命の問題です。厳罰化で終わりはありません。運転者一人一人が「罰則が厳しければいい」と意識を変えなければなりません。



街の中心部を国道5号が貫く西興部村(2022年10月撮影)

※7月13日付「北海道新聞」朝刊に掲載された対談記事を再編集して掲載しています。

あしながおじさんの広場



【7月】
自動車のみならず、自転車による事故も増えていきます。一人一人が他人を思いやる心で交通安全に取り組みます。
(埼玉県D・Tさん)

◇ 「君とつばさ」をいつも楽しく拝読しています。心塾生の皆様のご活躍をお祈りしています。
(神奈川県M・Tさん)

◇ これからも交通遺児に對する支えと頑張っていきます。
(山口県M・Tさん)

◇ 交通遺児の皆さんのために活用いただけるように、交通遺児の皆様により、交通遺児の皆様
(神奈川県M・Nさん)

茨城在住の高卒予定 遺児に奨励金を贈呈

茨城県社会福祉協議会

茨城県社会福祉協議会は、来春高校などを卒業する予定の交通遺児を対象に、奨励金25万円を贈呈する。12月27日まで申請を受け付けている。同協議会は企業・団体、個人からの寄付金を原資に交通遺児福祉基金を設け、遺児支援に役立てている。対象は9月1日現在、茨城県の居



住者で県内の学校に在籍し、来年3月に卒業が見込まれる交通遺児(鉄道、船舶、航空機などの事故を含む。今年度の高等学校卒業程度認定試験合格者も可)。申請・問い合わせは、同協議会福祉のまちづくり推進部(029・2443・3805)へ。

住商セメント株式会社 様

世の中の根幹を支え、

未来への礎を創る

新たな建物やインフラなど世の中に「新しい」ものが生まれる時には、まずセメント・生コンクリートをはじめとするセメント関連商品が必要となります。住商セメント株式会社様は、こ

ご支援に感謝いたします

育英会から

【8月】
交通遺児の皆様が将来に伸びる学びの機会を得られることを願っています。おのりです。
(東京都T・Aさん)

◇ 辛いとき、闇が深くて光が見えないけれど、必ず辛い過去があっても今
(京都府T・Yさん)

お便り

他人を思いやる心で交通安全を 心塾の後輩たちのためになれば

【9月】
目標に向けて精進していただきたい。応援しています。
(北海道K・Nさん)

◇ 大きな交通事故に遭い、命を助けられました。そして結婚、子どもを授かることができました。微力ながら、何かのお役に立ちたいと思っております。
(東京都I・Kさん)

痛ましい事故に見舞われた子どもたちが、希望を失わず、個性と才能を伸ばす。学生の方、頑張ってください。ず光はあると信じる気持ちで生きて。張ってください。
(茨城県K・Tさん)

◇ 子どもたちの未来が少しでも明るくなりますように願っています。
(千葉県F・Tさん)

◇ 2006年から4年間、心塾に入塾していただきました。少しばかりですが、後輩たちのためになれば、と思います。
(東京都N・Sさん)

◇ 進学をあきらめる人がなくなりすように。
(静岡県K・Tさん)

◇ 皆様が平安にお過ごし

交通遺児育英会の連絡先(平日9:00~17:30)

- ▽奨学金貸与について 0120-521286
- ▽返還・猶予・免除について 0120-521287
- ▽成績相談・つどい・語学研修 0120-521295
- ▽募金・寄付について 0120-521285
- ▽心塾入寮申し込みについて 0120-355619

教えて！交通事故Q&A

(公財)日弁連交通事故相談センター 13

Q 夫運転の車両に同乗中、信号機のない交差点で、出会い頭に衝突しました。相手方車両は「車は来ないだろう」と一時停止の標識を無視し、そのまま交差点に進入したとのことです。この事故により、私は頸椎捻挫の怪我を負いました。治療終了後、相手方の保険会社から賠償額の提示がありました。それによると夫には2割の過失があり、私の賠償額についても2割の減額をするとのことです。私は車の所有者でもないし何もしていないのに、賠償額を減らされてしまうのでしょうか。
(北海道・45歳女性)

夫運転の車に同乗中の事故 「被害者側の過失」とは？

A 民法722条は合致しないため、「被害者側の過失」に含められないと判断され、賠償額の減額がなされ得る場合があります。賠償額の減額がなされ得る場面には、減額を回避するため、夫の車両の自賠責保険や人身傷害保険から支払いを受けられることも考えられます。このような事案が発生した場合、請求の順序等難しい問題もありませんので、当センターまでご相談ください。
(東京弁護士会・川原奈緒子)

日弁連交通事故相談センター無料相談ダイヤル

0120-0783-25

月~金(祝日除く)10時~19時(相談・通話無料、10分程度)

ホームページ <https://n-tacc.or.jp/>

交通遺児 奨学生募集

ハンドルの重みは命の重み

高校・専修学校・各種学校 大学・大学院

《保護者の重い後遺障害も対象です》

東京都と関西に大学生・専門学校生の学生寮あり

〒102-0093東京都千代田区平河町2-6-1平河町ビル3階
☎ 03-3556-0773 ☎ 0120-521286
<https://www.kotsuiji.com/>